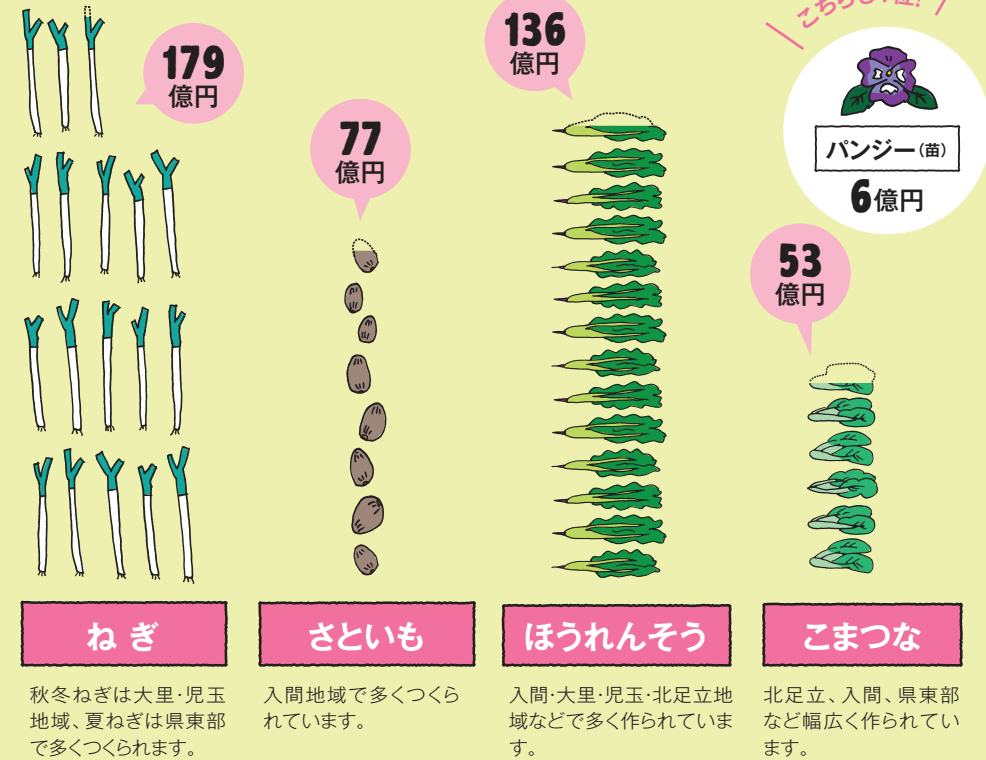


埼玉では いろんな農産物をつくらっています

産出額全国1位の農産物はこれだ！ (平成26年)



ほかにも
こんな農産物がつくられています



埼玉に移り住んで
農業を営んでいる人たちを
紹介します。

埼玉で農ある暮らし・移住体験談 [その2]
もに埼玉暮らしビト

農と

- 上里町 藤巻 里佳子 さん
- 杉戸町 篠宮 雄治 さん
- ときがわ町 金子 勝彦 さん



隣の群馬県、埼玉県最北の上里町。畑が広がり、のんびりとした雰囲気がある。

この町にある株式会社「関東地区昔がえりの会」は、生産した野菜を主に加工業務用として外食チェーンなどに出荷する会社である。周辺地域の農家の方などが会員となり、会員が栽培した農産物を販売したり、耕作していない農地を会社が借りて社員が栽培するケースなど、この会社から出荷される農産物の生産過程は多彩。ここ数年は、新規就農希望者を毎年数名、雇用している。

藤巻さんもその一人で、2013年から社員として野菜の栽培に取り組んでいる。

農業に就きたいと考え始めたのは高校生の頃。食べることが好きで、「食」に関心があった。また高校ではサッカーをやっていたので、外で体を動かすことが好きだったので、元気に外で働ける農業に魅力を感じた。だから、高校卒業後、埼玉県農業大学校への入学を決めたという。農業大学校では、農業に必要な知識や

技術を習得した。そして、農業大学校在学中の体験実習が縁で、この会社への就職を決めた。

ベテラン農家の助言が「ありがたい」

「埼玉の農業の強みは、一年を通してさまざまな野菜を栽培できること。」と話す藤巻さん。2016年からは葉物野菜を担当し、生産リーダーも務めるまでに成長した。

藤巻さんら若手社員を支えるのは、地元ベテラン農家の方々だ。「そろそろ虫が出る時期だから、気をつけて。」など、さりげなくアドバイスをくれるんです。皆さん、気さくに接してくれるので、分からないことは何でも聞けます。本当にありがたいと思っています。」と藤巻さんは語る。

目指すは農業経営者

「いつかは独立して農業経営をしたい。」とはっきりと夢を語る藤巻さん。「東京育ちのため、県北の冬はこたえます。野菜は思った以上に重くてキツイ仕事もありますが、それだけに、立派に育った野菜を収穫する時などに、大きなやりがいを感じ



畑の指導をしてくれる取締役の高橋仁さんと。娘を見守るような眼差しで作業を見守っています。

Fujimaki's voice

暮らして気づいた「この地域のよさ」

都心との距離感

休日に東京の実家へ帰ったり、買い物に出かけたりできるのが嬉しいです。埼玉と東京は近いので、両親の心配は軽減されていると思います。

地域や周りの人がやさしい

何といっても、地域の方々の温かさ。体調が悪くなった時に病院を紹介してもらったり、野菜やお米を差し入れていただいたり……。会社の先輩や、農家の方々などには、とてもお世話になっています。

1年を通じていろんな野菜を栽培できます



農と暮らしピト
Case.1

株式会社関東地区昔がえりの会

藤巻 里佳子さん [上里町]

Fujimaki Rikako

profile

農業大学校 農業法人

東京都出身。都内の高校から埼玉県農業大学校に進学し、農業を学んだ。2013年に株式会社関東地区昔がえりの会に入社後、主に葉物野菜の生産に携わっている。高校時代はサッカーに打ち込み、女子サッカーのクラブチームにも所属していたとか。

北部地域 [上里町p.43]

独立の夢へ向かって
就職就農

じます。」と、はにかんだ笑顔を見せる。「寒さは確かに厳しいけれど、冬の晴天と乾いた北風のおかげで、ここの野菜はうまいんです。」と話するのは、同社の小暮郁夫社長。「熱意のある人たちを育て、就農、独立へとつなぐのは、この地域でも大きな課題。藤巻さんのような、頑張る人たちを応援したい。」とエールを送っていた。

会社員から農業者へ転身

やりたいことを

自分で決められるのが

農業のよさ



農と暮らし
埼玉暮らし
にも

Case.2

農業者

篠宮 雄治さん [杉戸町]

Shinomiya Yuji

農地を借りることになったのは、この担い手育成塾の斡旋によるもの。今では計0.6haの農地で、1年を通して多品目の野菜を露地で栽培、出荷している。

自分で決められる農業 失敗とお客様の存在を糧に

作付けから収穫、出荷までの農作業を、篠宮さんは妻と一緒に「組織の中で自分のやりたいことが発揮できないのとは違い、やりたいことを自分で決めてできることが農業のよさですね。」

時には、作付けしても育たないこともあるなど、失敗は多いです。けど、失敗して身をもってわからないと次への改善や発展につながらないと思っています。」と篠宮さん。

収穫した農産物は、主に杉戸町内のスーパーに出荷している。「販売先に苦労したのでは？」との問いには「主な店舗は自分で探して交渉し、販路を拡大してきました。」と淡々と答える。地元のスーパに自分で野菜を届け、消費者の声が直に

入ってくることにに対し、「自分の作った野菜をお客様が楽しみにしてくれているのを実感できるのは励みになりますね。」と話す。

若手農業者たちとの つながりが刺激

農業大学校を卒業して就農した人は、定期的に同窓会を開催して情報交換し合うことがあると聞くが、篠宮さんは農家での研修のみ。どのように同業者の仲間と知り合うのかたずねたところ、近隣の若手農業者のグループ「農ミソ会」をつつて、定期的に集まっているという。会の代表を務める篠宮さんは、「気さくに楽しく農業について語ったり、悩みを相談したりしています。みんなの話や聞くと、自分も頑張らなくちゃ。」という気持ちがいってきますよ。仲間たちがいるって、やっぱり心強いですね。」と熱く語る。

家族、お客さん、同業者の仲間など様々な人たちに支えられる篠宮さん。今後の展開がますます楽しみです。



失敗も成功も共に味わってきた自慢のトラクター



「農ミソ会」の仲間と作った「ど(土)根性野菜」Tシャツ!

Shinomiya's voice



生き方も野菜も
かっこいいのが
いい!

暮らして気づいた「この地域のよさ」

土質がよい

土質は農産物の出来を左右する重要な要素。工夫次第で様々な作物が作れることが楽しく、いろいろと試しているところです。

消費地が近い!

一大消費地である東京に近いことは、農業をやっていく上で大きなアドバンテージ。「できた農産物の売り先に困る。」という農業者の声もしばしば耳にしますが、私は「やり方次第なのでは?」と思っています。

新規就農 農業研修で技術を磨き

埼玉県東部の杉戸町。都心から車で1時間圏内に位置しているが、江戸川、古利根川など豊かな水はぐくんだ田園風景が広がる。

篠宮さんがこの杉戸町に移り住んでから本格的に農業を始めたのが2010年。会社員からの転身だったため、杉戸町に隣接する久喜市内の農家で1年間、栽培方法や作物の管理技術などを学んでから杉戸町で就農した。

研修終了後、杉戸町の「明日の農業担い手育成杉戸塾」から支援を受けた。江戸川土手のそばで

profile

会社員 → 農家研修 → 就農

東京都出身。会社勤務の後、久喜市内の農家で研修を受け、2010年、「明日の農業担い手育成杉戸塾」による新規就農支援を受けて3年後に独立。少量多品目の農産物を露地栽培している。

東部地域 [杉戸町p.49]

金子さんは様々な経験をを経て、ときがわ町で農業を始めるに至った。大学卒業後、数年間は会社勤務を経験したが、もともと料理と自然が好きだった金子さんは転職を考え、料理の道を選んだ。修業

「好きな農業をやりたい」から生まれた今の暮らし

農家民宿とは、農家に泊まって農業体験ができる宿泊施設のこと。金子さんも、楽屋から車で数分のところにある畑で有機農業を営む農業者でもある。楽屋に泊まれば、この畑で農業体験し、採れたての野菜をいただくことができる。

埼玉県のはほぼ中央に位置する比企地域にあるときがわ町。山々に囲まれ清流 都幾川が流れる自然豊かな町である。

農家民宿「楽屋」
大きなお屋敷に泊まれて
農業体験

金子さんが経営する農家民宿「楽屋」は、JR八高線明覚駅から歩いて約5分。大きな和風建築のお屋敷で、予約をすれば宿泊することができる。

金子さんは選んだのは農業。埼玉県外で有機農業を学ぶプログラムに参加した後、ときがわ町で就農した。その後、地元の方のご好意でこの家を借りることができた金子さん。人々が出会う農家民宿とすることになり、開設に必要な手続きを行って2016年にオープンした。

農家民宿を運営しながら有機農業も続けており、忙しい毎日を送っている。周囲の方々から刺激を受けているようで、「隣の小川町と同様、ときがわ町にも有機農業をしている方が数多くいます。ときがわ町内の『ときがわ』に出荷するなど、一緒に活動しています。」と語る。

人や自然とつながり合う

を積み、国内外で数年間、調理の仕事に明け暮れたが、働き方を変えてきて実家に戻った。

自然に触れ合う仕事をしたかった金子さんが選んだのは農業。埼玉県外で有機農業を学ぶプログラムに参加した後、ときがわ町で就農した。その後、地元の方のご好意でこの家を借りることができた金子さん。人々が出会う農家民宿とすることになり、開設に必要な手続きを行って2016年にオープンした。

たり、いろいろ質問されちゃうんですよ。」既に移住のセンパイとして頼られているようである。



楽屋のお客さんの農業体験の様子



Kaneko's voice

暮らして気づいた「この地域のよさ」

都心から近い里山

関越自動車道東松山I.C.から約20分のときがわ町で、里山暮らしを満喫できることは魅力。楽屋には東京からお越しになるお客さんも多いです。東京都内の友達も時々遊びに来てくれます。

地域の活力=人

ときがわ町やその周辺には、農業、林業、地域活動などで頑張っている仲間が数多くいて、協力してもらっています。同じような志をもつ彼らの存在に刺激されることが多いですね。

色々なご縁があってこの地域で暮らすことができました



農と
埼玉暮らし
ビト

Case.3

らくや
農家民宿「楽屋」【ときがわ町】

金子 勝彦さん

自然と触れ合う仕事をしたくて就農
田舎暮らしを体験できる
農家民宿を開きました



Kaneko
Katsuhiko

profile

会社員等 → 就農 → 農家民宿経営

川越市出身。大学卒業後、会社勤務、国内外での飲食業勤務を経て故郷へ。偶然借りられた、ときがわ町内の畑で有機農業を営むために、2015年5月にときがわ町へ移り住む。2016年に農家民宿「楽屋」をオープン。

農家民宿 楽屋
住所 比企郡ときがわ町番匠445-1
電話 080-4709-2798
http://rakuya-inn.com

西部地域【ときがわ町p.45】



埼玉で農業にチャレンジしたいあなたへ。
就農までのステップをおさらいしよう！



「埼玉で就農」のステップ

STEP 1

考える

どんな農業をしたい？

農業をやろうと決めた人は……

農業をやるには経験と知識と技術が必要。研修は登竜門です。

お客さんに喜んでもらうには何をしたらよいか？

農業をやること、家族と話し合って応援してもらおう。

農業を始めるには道具や資材を買うなどお金がかかります。資金を用意しましょう。

埼玉県のどこで農業したい？
農地は借りられる？
農地の規模はどれくらいを希望？

どんな野菜を作りたいか？

地域の方とのつながりは大事。

農業には挫折や失敗がつきもの。くじけない気持ちが成功の第一歩！

栽培した農産物をどのように売る？



STEP 2

学ぶ

仕事にするなら知識と技術が必要



- ▶ 埼玉県農業大学校や埼玉県農林公社の就農予備校に入学して学ぶか、指導的農家で研修する方法があります。
- ▶ その後、実際に就農する時には、県内に設置の「明日の農業担い手育成塾」の制度を活用し、指導者から実地指導を受けることもできます。(所定の研修、教育実績などの条件を満たした場合)

STEP 4

準備する

STEP3の計画をもとに具体的な用意

- ▶ 農地を見つける
市町村や知り合いなどを通じて借りられる農地を探します。借りるには農業委員会の許可が必要です。
- ▶ 農機具をそろえる
購入するか、場合によっては知り合いから貸してもらえることもあります。
- ▶ 住宅を見つける
できるだけ畑に近い家を借りる場合が多いようです。
- ▶ 指導者を見つける
就農してから、困ったことがあった時に相談に乗ってくれる指導者がいると心強いです。

番外編

農業法人に就職して農業する道もあります！

- 求人情報を探す
- 農林公社の無料職業紹介で探す
- 農業大学校で学んでから就職する
- 農業法人見学会に参加してみる

STEP 3

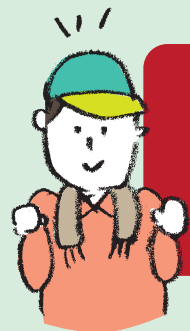
未来図をつくる

営農計画づくり

- ▶ どんな作物を作るのか
- ▶ 農地の規模と適する場所探し
- ▶ 資金確保の計画
- ▶ 所得の目標の設定 など

STEP 5

農業の始まりはここから



ADVICE

就農専門相談員のひとことアドバイス

農業は、農産物を育て、収穫・販売する喜びや、消費者から感謝の気持ちをいただけるやりがい、肌で実感できる職業です。

農業で経済的な自立を果たすには、いくつかのクリアすべきハードルがあります。

主に、①農地の確保、②投資可能な資金、③栽培技術の習得、④独自のビジネスプラン、といったものです。

しかし、情熱があり、行動すれば、おのずから未来は開かれると思います。

さあ、我々と一緒に、埼玉農業を盛り上げていきましょう！

▶ まずは相談窓口で話を聞いて現状を知ろう

▶ 次に具体的に相談をしよう

(公社)埼玉県農林公社

(埼玉県青年農業者等育成センター)
☎048-558-3555

各農林振興センター

P.57をご覧ください。
就農予定地など地域別に相談ができます。

就農支援セミナー
休日就農相談
新農人フェア

年に数回開催されています。
日程等、お問い合わせは
農業支援課
新規参入支援担当まで
☎048-830-4051



就農した後 農業の6次産業化の道も

農産物の生産(1次産業)に加え、加工(2次産業)や流通・販売(3次産業)も行い、農業経営を広げる選択肢もあります。

たとえば・・・

自分でつくった農産物を
加工・商品化して販売



農地の一部で
観光農園・体験農園を開設



自分でつくった農産物を使った
レストランやカフェを運営



※チャレンジする内容によって許認可などの手続きが必要となります。
事前に管轄の農林振興センター(⇒p57)にご相談ください。